

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 (使用評価ソフト: osk_CASBEE-BD_NC_2016(v2.1))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	明治関西エリア新物流倉庫建設工事	階数	地上2F
建設地	大阪府高槻市朝日町	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	200 人
地域区分	5地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2018年1月30日
敷地面積	37,027 m ²	作成者	株式会社大林組大阪本店一級建築士事務所
建築面積	6,692 m ²	確認日	2018年2月1日
延床面積	9,388 m ²	確認者	株式会社大林組大阪本店一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
高効率機器及び高断熱仕様の断熱材を採用することで、省エネルギー性に配慮した。また冷暖房負荷を軽減し、環境負荷を低く抑えられる建築物となるように配慮した。		特に無し
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
事務所スペースには、吸音材を積極的に採用することで室内環境及び周辺環境の快適性を確保した。また、喫煙スペースを確保し、室内を常に負圧に保つことで空気質環境が快適に保たれるように計画した。	仕上材には耐久性の高いものを採用し、その他維持管理が効率的に行われるように配慮した計画とすることで、性能が長期間保たれるように配慮した。また壁長さ比率を低く設定することで、将来フレキシブルにプラン変更等に対応	周辺に開けた建物となるように、建物周辺には緑化を積極的に確保した。また既存の樹木を一部保存し、生物資源の保護を図った。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
断熱材は高断熱能のものを使用し、建物内設備にはLED照明等高効率設備を採用することで、建物から発生するエネルギー量の低減に努めた。	建築部材はリサイクル材や、将来再利用できる部材を積極的に採用し、断熱材はODP及びGWPが低く抑えられた材料を使用することで、地球環境負荷の低減を図った。	建設に伴って発生するCO ₂ の発生量を低く抑えることで、地球温暖化に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム 2017年版

大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H29-0138

Osakafu-新築・既存 2017V1.0

【建物概要】		建物名称	明治関西エリア新物流倉庫建設工事					
		建設地	大阪府高槻市朝日町200番1の一部、200番5、200番9、1162番					
		用途/区分	工場 事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+		
	CO2削減					3		
	省エネ対策					3		
	みどり・ヒート アイランド対策					3		
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	
エネルギー消費量の報告							報告しない	
【評価項目】								
省エネルギー対策		① CO2削減						
		② 省エネ対策						
項目		評価内容				スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.3	3	
② 省 エ ネ 対 策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 2」 のスコアによる評価			建物全体	3.0	3	
	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0		
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0		
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				2.7		
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価				3.0		
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価				2.2		
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない		報告しない
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策						
項目		評価内容				スコア	評価	
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				3.0	3	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				2.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				2.0		
その他								
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項								